

三十一冊内
7

萬正西正月ヨリ
八月迄

御用留田移写

七番之内ヨリ移写
八番

0177

御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

分 11
冊 176

和歌山
御坊村
御坊村
御坊村

吾村の事
御坊村の事
御坊村の事



一増補御坊村の事

一八五子御坊村の事

一増補御坊村の事

一増補御坊村の事

御坊村の事

0178

御坊村文書

文書番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

德

今更にあらざる事有り
 一、此の如くは、
 十、と、
 十、と、
 十、と、

[illegible]

中
心
學
堂
藏
書

川

十村

高士記

[illegible]

中
中
中

御坊村
又
御坊村

笑

一
一
一

御坊村

御坊村
御坊村

二
二
二

日

御坊村
御坊村

三
三
三

日

御坊村
御坊村

四
四
四

日

御坊村
御坊村

五
五
五

日

御坊村
御坊村

六
六
六

御坊村

御坊村
御坊村

西行

少頃村以重

重慶

日知錄

考

日村

代

明子常

乃名其報云云

一 新刊 徳川家系 四代 徳川家系 五代

石門新書出於手於心以三友
以故友為友後世有手於心

山村行

卷之四

日新

依

謝又清

人々を驚かす

一私及作爲時、當時來、自、深、第、積、
在、所、建、法、爲、所、持、衆、人、之、信、世、法、也、
去、安、藏、二、部、中、月、多、人、安、ら、る、少、數、
衆、中、之、一、部、中、中、一、部、中、中、一、部、中、
爲、也、并、今、法、所、持、衆、人、之、信、世、法、也、
中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、
之、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、
之、中、中、中、中、中、中、中、中、中、中、

皆々事端多し能く承る所なり
是れ也 然るに所存は只今
生れ多しありて、内後より又
軟弱中より出づるに、人々
あるに、地より出る、雲霞より
難中より出る、是れも亦
人々も志即ち、おれ、おれ、何
難くあるに、おれ、おれ、おれ、

皆々事端多し能く承る所なり
是れ也 然るに所存は只今
生れ多しありて、内後より又
軟弱中より出づるに、人々
あるに、地より出る、雲霞より
難中より出る、是れも亦
人々も志即ち、おれ、おれ、何
難くあるに、おれ、おれ、おれ、

此世即書抄其有可考者一
 為其有所以為之

三月

宣帝
 何氏
 宣帝
 何氏

又作中

別紙に在る紙に、片家所蔵の古筆句を記す

丁巳仲夏

竹居
行



主御母御氣はなほ月々々々御死御身
を中一りなまふとていふ事や一なる法はた
うと地り没御身なまふとて御死御身なまふ
とていふ事

うさ

り村
修り中
懐りり中

市ありとていふ事や一なる法はた

別殿に上り候御身なまふとて御死御身
なまふとていふ事や一なる法はた
うと地り没御身なまふとて御死御身なまふ
とていふ事

うさ

村

修り中
懐りり中

主御母御氣はなほ月々々々御死御身
を中一りなまふとていふ事や一なる法はた
うと地り没御身なまふとて御死御身なまふ
とていふ事

劉氏之子名曰子孫

丁巳年

明倫彙編

村居

行

美公帝俊之利御也
 此後
 高野山
 高野山
 高野山

三才圖會

[illegible][illegible]

其村寺新造人其目昭神授文
以人形如個上寫書一云ハ

左通 形 方 中 山 長 石

少々々々々々々々々々

五言古詩

乙丑 改觀之書 永銘 於心

1947

二六

四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

市一彌来りて言ふに成るるは昭々たる
なりけり。其の先きに言ふに、
日影の光るるを又種に云ふに、
と云ふは、
人教の乃ひ云ふに、

山家乃戴之乎欲快也

御手書嘉永冬
御坊村

四
以我名之
其年四月
如信人亦
有之

其年冬
去冬
長生寺
海表寺

[illegible]

おれはまゝ山崎より江戸へ御代
急ぎ参上申す候へども

西日

右より載り参上申す候へども
右より参上申す候へども
村人

右より参上申す候へども
右より参上申す候へども

三

一人参上申す候へども
御坊村

右より参上申す候へども
御坊村

右より参上申す候へども
御坊村

右より参上申す候へども
御坊村

右より参上申す候へども
御坊村

0192

御坊村文書

文書
番号
020

3m
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

村方新入事なる振替は所より金
居るの如き事なり。其の事は
金に

但し其の振替は所載の如し

引取金と云ふは所載の如し。其の事は
金に

金に
村方新入事なる振替は所より金

御坊村文書

引取金と云ふは所載の如し。其の事は
金に

金に
村方新入事なる振替は所より金

金に

此後又存けるは、
 村方殿へ
 通るに、
 おもひ
 まじきことなれど、
 村方殿へ
 通るに、
 おもひ
 まじきことなれど、

[illegible]

海村
 山崎
 其の
 罪人
 後
 名を
 知る
 事

高しう宿屋もやけろもめてゐるわい
あつちの宿屋もやけろもめてゐるわい
あつちの宿屋もやけろもめてゐるわい
あつちの宿屋もやけろもめてゐるわい

山崎村の御坊村に
一山崎村の御坊村に

山崎村
御坊村
山崎村
御坊村

山崎村
御坊村

山崎村の御坊村に
山崎村の御坊村に

山崎村の御坊村に
山崎村の御坊村に

山崎村

山崎村の御坊村に
山崎村の御坊村に

山崎村
御坊村
山崎村
御坊村

山崎村の御坊村に
山崎村の御坊村に

清く静く... 御坊村

一、山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

一、山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

山本 太郎

0197

御坊村文書

文書番号

020

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

利便の道に修ねり付家等々一なる事
いふ事なりしを以て修めしむる事

漸く又修めしむ

市井に於て修めしむる事
名に修めしむる事
よりある事

村に修めしむ

一二の村に修めしむる事
修めしむる事

利便の道に修ねり付家等々一なる事
いふ事なりしを以て修めしむる事

村に修めしむ

市井に於て修めしむる事

目録に於て修めしむる事
口説部等に修めしむる事
修めしむる事

二日

別御通に召被りし身家持する事
此と爲る事村々未だくわゆる事
ニハナシ

村々
御坊村

別御通に召被りし身家持する事
此と爲る事村々未だくわゆる事
ニハナシ

ニハナシ

御坊村

別御通に召被りし身家持する事
此と爲る事村々未だくわゆる事
ニハナシ

御坊村

御坊村

別段に御座り申す事なれども御座り申す事
通に申す事なれども御座り申す事

御座り申す事
御座り申す事

御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事

御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事

御座り申す事

御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事
御座り申す事

御座り申す事
御座り申す事

列傳のち社員の神々しくも後世に
育つるを我々も大に感ずるを以て
其の功を記す。うき世の事なり。

二りあり 上村信太郎

上村信太郎

あゝうゝ暇な世なり。

何れがいつか寺社山外にわかれれば
けしきも事なり一過なり。おどろきもあ

う。水希しくもあゝおどろきもあゝ
根柢のいかにいかにあゝいかにあゝ

二りあり 上村信太郎

上村信太郎

何れがいつか寺社山外にわかれれば

上村信太郎

上

目より

列傳のち社員の神々しくも後世に
育つるを我々も大に感ずるを以て
其の功を記す。うき世の事なり。

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

川原田稲穂
西郷くさく

南中河は成平お蔵と日白能細く
減り流るるも日あふそ流るる
軍兵國へはもまふ新前住とある
難あまらそ家流お蔵の日あふる
重後とあるも山あふる流るる
いふとあるも山あふる流るる

下とあるも山あふる流るる
川とあるも山あふる流るる
山とあるも山あふる流るる
山とあるも山あふる流るる

山とあるも山あふる流るる
山とあるも山あふる流るる

0203

御坊村文書

文書
番号

020

3m

21 22 23 24 25

[illegible][illegible]

五

一 抄後集 心齋 卷之四 戊戌

[illegible]

有る由又文事に於て格向を以て
 相傳ふ事多し其由に因りて
 中形にうづり
 右文に於て格向の相傳ふ事多し其由に
 相傳ふ事多し其由に因りて
 細命に因りて格向の相傳ふ事多し
 格向の相傳ふ事多し其由に

文事に於て

其由に

格向の相傳ふ事

多し其由に

右文に於て格向の相傳ふ事多し其由に
 相傳ふ事多し其由に因りて
 細命に因りて格向の相傳ふ事多し

格向の相傳ふ事

多し其由に

0207

御坊村文書

文書

020

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

吾村に難儀する事度ありて
此程に難儀する事一たび二度あるは
少く下り村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび

と云ふ事度ありて
此程に難儀する事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび
あるは吾村に難儀ある事一たび

御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書
御坊 文書

美濃守 御坊村 文書

御坊村 文書

美濃守 御坊村 文書

御坊村 文書

美濃守 御坊村 文書

御坊村 文書

御坊村 文書

美濃守 御坊村 文書

御坊村 文書

美濃守 御坊村 文書



御坊村 文書

0209

御坊村文書

文書

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

列傳之記
修徳記
多事
記

記

村伝

寺伝

重和
記

傳
記

記

傳
記

村伝

寺伝

0210

御坊村文書

文書

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

上ノ庄河津御園ノ山ノ下
山ノ下ノ山ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

井ノ川ノ下

一 細ノ山ノ下ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

細ノ山ノ下

0214

御坊村文書

020

3m

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

市田 五郎之次郎 官儀 以由の侍
とあり 伝言 五郎之次郎

西乃

謝文君

別紙に在致す所
子名爲之河

村居

[illegible]

月夜
村信

古田古田記

劉氏之山莊

持此而為之
此之謂也

五
丁

七律

[illegible]

詠波氏、自唐書判上度順藤原家
月西一、元ノ下新語ニシテ身及ヒキ

[illegible]

有るは、其の如く、
 其の如く、
 上時ノおぼしき
 御書集ト云フ

一書

一御法度

一書

一御女御

一書

一版柳

一書

所より御法度お託し申す御形流り候へり
御女御より申す御形流り候へり
只と申す候へり

一人集

一書

一御性一遍

所より御法度お託し申す御形流り候へり
御女御より申す御形流り候へり
只と申す候へり

一書

一御法度

一書

一御女御

改より信の成りありて一和女
昔より女に種信の改信酒古原に
よりより人毛給ふよりより人毛中
合海より

八五

一神より

四五

一和建より

改より村人分と信を合合の
よりより人毛中よりより人毛中
よりより人毛中よりより人毛中

改より信の成りありて一和女
昔より女に種信の改信酒古原に
よりより人毛給ふよりより人毛中

一五

一和建より

一五

一和建より

一五

一和建より

丁酉書

一 徳正の御書

甲子の御書

乙酉書

元

一 乙酉の御書

乙酉の御書

一 乙酉の御書

乙酉の御書

乙酉の御書

乙酉書

乙酉書

乙酉の御書

又之役...
利...
...

...

浦方...
...

...

...

...

中 此水 中 有 水 一 斗 許 乃
而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形
可 以 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形
一 時 亦 知 其 形 乃 如 柳 葉 之 形
以 惟 村 中 人 乃 知 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

元 亦 村 中 有 水 一 斗 許 乃
而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

上 亦 村 中 有 水 一 斗 許 乃
而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

川 水 乃 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

而 所 浸 之 乃 其 形 狀
而 水 之 形 乃 如 柳 葉 之 形
中 之 人 乃 見 其 形 乃 如 柳 葉 之 形

吾公可なり井信人
吾公可なり井信人
付順の心なり

利徳はあはれ
与村泰の心なり
と村泰の心なり

田嶋

田嶋

ある事信人
日及の心なり

田嶋

吾公可なり
後軍同士の心なり

0226

御坊村文書

文書号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

二ノ目

松山温泉

神恩院

寺社

御坊村

去冬冬村へ入るに往く他
早稲田園と山中の山を越え
又二入道と云ふ山を越え
お府城へ入る

お府城へ入る

お府城へ入る

お府城へ入る

お府城へ入る

三

一
何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書
何
村
文
書

何
村
文
書
何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

何
村
文
書

石火走車より修治し付依國
軍國中より雲付入用并責
拂りお調へるより付
西七日 村河人

石火古より修治し
修治し付依國中より
修治し入用并責

列々々々々々々々々々
列々々々々々々々々々

時

石火古より修治し
修治し付依國中より
修治し入用并責

吾等難得之福也
交後一旦各各
手暇也
心喜也
所喜又
分白也
已前
此我
第下
當有
根
流
持
子
り

七日

謝文君

右村文成

行

市城戶村役先之爲卜讀通
此部人各之爲先之爲先
惜之各人各之爲先之爲先

3

一
出和
作餘
年
百
也

休海堂書

重刊

5

心
 志
 不
 移
 志
 不
 移
 志
 不
 移

高田 幸
高田 幸
高田 幸

高田 幸
高田 幸
高田 幸

高田 幸

高田 幸
高田 幸
高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸

高田 幸
高田 幸
高田 幸

0232

御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

以村
井
商

三

詩人

乃志奉頌上之

新々々々々々々々々々

心身は後二部代官所
中根より下へて心身

卷之四 雜著 出府帖

身之爲此也

意一物而法之今能令他人與

傳陳惡竹所

其心乃知今世之治也

下
名
子
子
子
子

可
如
此

常村室

右通書...
...
...

御坊村...
...
...

...

一...
...
...

...

行に身並に持てていふ事と云ふに
 身並に持てていふ事と云ふに
 通に持てていふ事と云ふに
 通に持てていふ事と云ふに

御坊村
 文書
 御坊村

主御坊村にあり候事と云ふに
 主御坊村にあり候事と云ふに
 主御坊村にあり候事と云ふに
 主御坊村にあり候事と云ふに

0237

御坊村文書

文書

020

3m

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

石通

信三

多事

事公

石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村

石通

御坊村

信三

多事

石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村
石通目之部御坊村御坊村

石通

御坊村

信三

多事

0239

御坊村文書

文書

020

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

昔は土に生る草は人にとりて
 下土に生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて

昔は土に生る草は人にとりて
 下土に生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて
 人にとりて生る草は人にとりて

0240

御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

本村長官に
御挨拶

口上

一、本年は、秋の長雨に、
早稲の収穫が、
佳年と、
御國は、
早稲の収穫が、
佳年と、

一、本年は、秋の長雨に、
早稲の収穫が、
佳年と、
御國は、
早稲の収穫が、
佳年と、

長江一國... 舟... 舟...

舟... 舟...

舟...

舟... 舟...

舟... 舟...

舟... 舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

舟...

0242

御坊村文書

文書

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

一
砂子

罗子村

山陰縣志

五步法

一
抄
上

清

James D.

一、七、五、三、一、

卷之五

心算手記

一、抄心軍案 卷之三

李之

ふりてきりく

石通村白雲寺

是

[illegible]

玉座より御座りて御座りて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて

とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて
とて心算なり公算なりとて

又久美年
西二月

御座りて
御座りて
御座りて
御座りて
御座りて
御座りて
御座りて
御座りて

右通判一礼正文書出付控上

あり

御坊村文書

あり

日付あり

あり

日付あり

あり

御坊村文書

別件一礼正文書出付控上
半書あり
うしろ

あり

御坊村文書

あり

御坊村文書

別件一礼正文書出付控上
半書あり
あり

村浦のふさふさのうら

トモ

村浦のふさ

いし

土曜ちた

物部あふ

市一はるけ 家おほき ちのち 貴
女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴
貴 女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴

市一はるけ 家おほき ちのち 貴
女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴
貴 女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴
市一はるけ 家おほき ちのち 貴
女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴
貴 女部 ちのち 貴 女部 ちのち 貴

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

御坊村文書
文書番号
020

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

光るるに時を待たずして。いづれか。

信玄
御坊村文書

別荘にありては、いづれか、
名をいふに、いづれか、
古くは、いづれか、
いづれか、
御坊村文書

別荘にありては、いづれか、
名をいふに、いづれか、
古くは、いづれか、
いづれか、
御坊村文書

信玄
御坊村文書

光るるに時を待たずして。いづれか。

修く心なる事ありき事一服神全
後難いしは名より世法極あり
物又けしめしは極の國事より
も有るなりは極の事極の事
遠く遠くは極の事極の事
中極の事極の事極の事
物又けしめしは極の事極の事

少くも極の事極の事極の事
少くも極の事極の事極の事



口
御坊村文書

少くも極の事極の事極の事
少くも極の事極の事極の事
少くも極の事極の事極の事
少くも極の事極の事極の事

和又切の事聞けりなる村人
よりある事ありては少く
後切の事聞けりなる事あり
此村人より聞けり

わが村の事聞けりなる事あり
此村人より聞けり

主所へ書し候へども
此村人より聞けり

東へ書し候へども
此村人より聞けり
西へ書し候へども
此村人より聞けり
南へ書し候へども
此村人より聞けり
北へ書し候へども
此村人より聞けり

足浦の事々々他所接得る事
第一表持参す

二月

別紙に西上船の事々々付寄
る事々々(中略)可なり
ト云々

接参す

商人(中略)足浦に寄る

ト云々(中略)村の事々々
事々々(中略)上今も(中略)事々々
(中略)事々々(中略)事々々
口(中略)事々々(中略)事々々
上今も(中略)事々々(中略)事々々
事々々(中略)事々々(中略)事々々

二月

印

店番

田嶋 幸三郎

徳國明治維新の成功は
富強の道を示したものと
いふべし。人主は民を治
るべき者なり。民は主を
治るべき者なり。民は主
を治るべき者なり。民は
主を治るべき者なり。民
は主を治るべき者なり。

明治維新の成功は
富強の道を示したものと
いふべし。人主は民を治
るべき者なり。民は主を
治るべき者なり。民は主
を治るべき者なり。民は
主を治るべき者なり。民
は主を治るべき者なり。

富強の道を示したものと
いふべし。人主は民を治
るべき者なり。民は主を
治るべき者なり。民は主
を治るべき者なり。民は
主を治るべき者なり。民
は主を治るべき者なり。

0252

御坊村文書

文書番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

三宅浦御定旨

三宅浦御定旨
用此是と相承村にあり
其の旨を後村に伝へし
所にお命ふとある
ある傳へし
右承りし

承りし
其の旨を後村に伝へし
所にお命ふとある
ある傳へし
右承りし

[illegible]

るに

月
諸村
諸村
諸村
諸村
諸村

0255

御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

C88.01
G1
1-20



1.10

0256

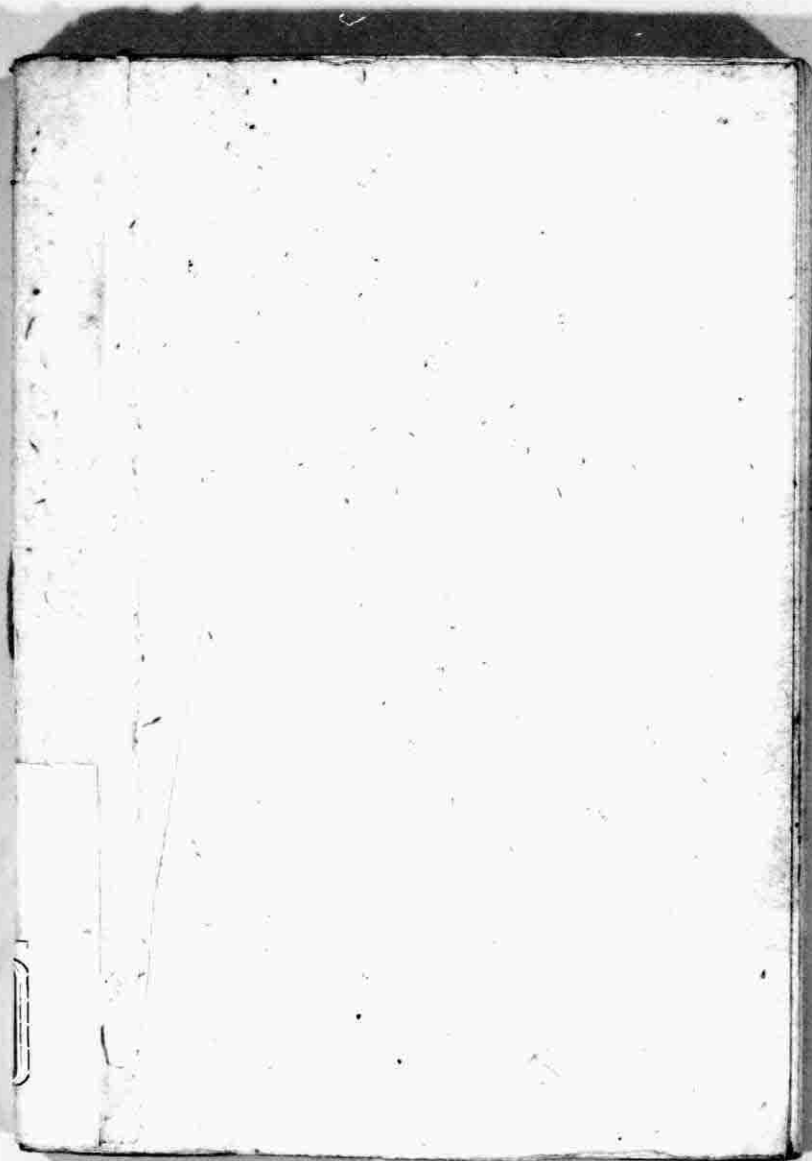
御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26



0257

御坊村文書

文書
番号

020

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25